

平成 30 年度 第 2 回ナセ BA 運営協議会議事録

1. 開催日時 平成 31 年 1 月 29 日(火) 午後 3 時 30 分～午後 5 時

2. 開催場所 ナセ BA 1 階 体験学習室

3. 出席者

(委員)

我妻 仁(我妻社会保険労務士事務所・協議会会長)

北口 己津子(米沢女子短期大学)

太田 和広(米沢市立関根小学校校長)

佐藤 繁(米沢市芸術文化協会)

津山 真由美(中部コミュニティセンター)

小嶋 千夏(主婦)

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

種村信次(理事長)、岸順一(副理事長兼図書館長)、菅野智幸(常務理事兼事務局長)、青木昭博(主幹)、遠藤朋香(図書業務担当)、齊藤かおり(図書業務担当)、福石敏史(図書業務担当)、石黒志保(郷土資料業務担当)、川橋勇人(総務企画担当)

欠席者

加藤 公一(米沢市第三中学校校長)

海野 耕二(米沢商業高等学校校長)

大類 雅子(米沢市芸術文化協会)

白田 静雄(地元商店街)

4. 開会(事務局)

5. あいさつ(理事長)

ナセ BA の運営協議会も今年度 2 回目となるが、日頃、委員の皆様にはナセ BA を広い目で観察いただき、ご意見をいただき御礼申し上げます。

12 月 2 日、ナセ BA 創立から 100 万人日の利用者の方をお迎えすることができた。当該の利用者も喜んでくれたが、自身も短期間で達成できたことをうれしく思う。

ナセ BA もちょうど三年目になるということで、米沢市の文化教養を高める拠点とって

もよいかと思う。本日議題として報告する事項について、皆様から貴重なご意見等を頂戴したいと思っている。文化施設としての価値を市民とともに一生懸命高めていくので、ご指導をお願いしたい。

4. 議事

1) 第1回ナセBA運営協議会の意見要望に対する取り組みについて(報告)

(津山委員) 「大人向け朗読会」について、計画の中にある朗読会と読書会との違いは何か。

(事務局) 表記の誤り。両方とも読書会が正しい。

(太田委員) 「本のスタンプラリー」の実施について、学区外の子どもは親の送迎で図書館に行く者が多く、スタンプラリーへ親に連れて行ってもらう子どもが出ることは良いきっかけづくりになると思う。自分も図書部会を担当しているので、連携していきたい。

(北口委員) 児童関係のサービスについて活発な意見が交わされているように思うが、高齢者社会ということで高齢者向けのサービスとして、認知症に関する特集を組んではどうか。

また、「図書館としてほしい本の広報」に対する取組計画の中の「寄贈受入基準作成、公表」について、どういった基準が設定されているか。

(事務局) 認知症の特集については実施済み。高齢者、特に郊外にお住まいの方に対するサービスは大きな課題といえる。

寄贈について、受け入れ基準としては原則発行三年以内のもの、需要の高い資料など。以前から基準は存在したが、今回HPにて公表し、利用者の方へご理解を頂いたうえで寄贈してもらう体制を作る。

(北口委員) 文化を守る、という側面から、図書館が必要のあるものを優先に受け付ける、という点には疑問を感じている。ナセBAには郷土資料の部署があるため、そうした史料価値のある資料の寄贈も受け付けるべきと考えている。

(事務局) 需要が高いベストセラー作家の本を希望している、といったことはない。郷土資料の寄贈も多くあるが、整理の時間やスペースなどに課題が残っている。

(佐藤委員) 「レファレンスのネット受付」について、本年度のレファレンス件数は何件で、どのような分野で活用されているか。

また、「コミセンでの貸借」に関連して、郊外の高齢者等のために、コミュニティセンター等にPCを設置することでそこから図書館HPへアクセスしてもらい、レファレンス等を受ける制度があっても、公共施設の利用促進という点からよいかと思うが、どのような体制になっているか。

(事務局) ネット受付のレファレンスの統計については郷土関係のものを対象に行っている。今年度はまだ完全には把握していないが、恐らく30件程度となる見

込み。

コミュニティセンターに関しては、祭事や子どもの長期休み等に際した内容の本の貸し出し希望を受け、対応する場合がある。アタゴオルの所蔵だけでなく、本館の所蔵を用いて対応を行っているため、有機的に資料活用を行うシステムはすでに整っているといえる。今後の拡大については検討が必要。

また、公共施設の利用促進としてはコミュニティセンターのほか、福祉施設や学童保育施設等へも貸し出しを行っている。

(小嶋委員) 子供特集コーナーについて以前より素晴らしいと感じていたが、場所が奥の方にありもったいなく感じている。知らない方も多いと思うので、ぜひ目立つ場所へ設置してほしい。

また、スタンプラリーに関しては小学生だけでなく、幼稚園や小さい子ども対象でも活用できると思うので検討してほしい。意見要望については、例えば海外の方に協力を頂いてのよみきかせなどがあるとアピールとなっていていいのではないかと思う。

「職員研修会」の実施については、ワインのソムリエのように資料それぞれの専門アドバイザーを育成し、それを示すバッジなどがあると相談しやすいと思う。

利用者増の取り組みを行うにあたっては、どういった方の利用を増やしたいか、ターゲットを絞ったほうが対策も練りやすいと思うが、どのように考えているか。

(事務局) 子ども特集コーナーについて、目立たせた方がいいとは感じるが司書としての視点も考え、検討していきたい。

スタンプラリーに関しては、読書の励みになる、という観点からもぜひ対象を拡大していきたいと考えている。

英語のよみきかせについては、今年は米沢野々村スクールの協力による実施例がある。今後国際交流協会等の協力を仰ぎたいと考えている。専門アドバイザーに関しては、素晴らしい意見だと思うが、現在担当制で職員配置をしていないので、今後担当制を行うこととなった場合に検討したい。

ターゲットについては、すべての年代の方を対象にしたいが、中でもヤングアダルト、及び郊外にお住いの高齢者の利用者増を目指したいと考えている。

(津山委員) 子どもの育成のため、伝国の杜のナイトツアーのように、図書館のバックヤードツアーなども希望する。

(事務局) バックヤードツアーは本年度2回実施。うち1回は夜に開催しており、大人の参加もあった。子ども対象のものは夏休みに開催しているが、年間で何回開催できるか検討しながら、子供の育成という観点からも実施していきたい。

2) 平成30年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営中間評価について(報告)

- (小嶋委員) 入館者の目標値はどこからきたものか。
- (事務局) 目標値については、米沢市が本館を建立する際、事業計画書上で設定した数値となる。
- (我妻委員長) 財団への寄附金についてだが、これは寄附金控除の対象になるのか。
- (事務局) 対象となる。
- (我妻委員長) 「図書館カード利用による入館者」とあるが、こういった仕組みとなっているのか。
- (事務局) 貸出等で用いる図書館カードを博物館へもっていくと、小学生から大学生に限り団体料金で入館できる。常設展・特別展共に対象。これによって博物館と図書館両館の入館者増を図っている。
- (太田委員) 学習室は、学習しやすい環境なのだと考えているが、内部評価では厳しく、細かいところまで評価を行っており、すごいことだと感じた。
評価項目にある「職員と来館者の評価を適時に行い」という部分について、来館者からどのような要望があったか。
- (事務局) 自由記述、及び段階的に評価する形式のアンケートを配置している。中には厳しい意見もあるが、多くの方々は主に職員の対応について好評価をしてくださっている。冷暖房、蔵書等、要望は多岐にわたるが、分かりやすい書架への改善など、対応を行っているものもあるが、その全てにお答えするのは難しいと感じている。残された改善すべき部分については、今後できるところから対応していきたい。

3) 平成31年度 市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの開催予定事業について(報告)

- (佐藤委員) 利用者側の意見として、ギャラリーを借りるにあたり、希望者の多い期間とそうでない期間があると思うが、その調整はどのようにしているか。
また、物を置いておけるスペースの確保や、体験学習室でのイーゼルの常備など、展示や学習で利用する方へ向けた工夫はしているか。
先人顕彰コーナーについては、ギャラリートークのようなものがあればより身近に感じることができると思うが、そういった利用者が立ち止まって鑑賞できるような工夫は可能か。
- (事務局) ギャラリーの利用期間については市の共催事業、本館の自主事業であれば優先されるということもあるが、基本的に申し込み順となっている。利用期間や展示場所の偏りについては今後の課題といえる。なお、自主事業についてはこうした利用者の少ない時期に行っているという側面もある。
展示物を保管する場所やイーゼルに関しては、倉庫のスペースの問題もあ

り、検討を要する。

先人顕彰コーナーでのギャラリートークについては音の関係から難しく、配布資料による解説を行っている状態。来年度の事業に関していえば、上杉茂憲展では体験学習室にてミニ講演会を、平田東助展ではすこやかセンターにて市主催の講演会を予定するなど、直接解説ではなく、関連事業としての講演会を企画している。

5. その他

(北口委員) 米沢図書館のHPを授業等でも題材に用いているが、ナクソスをはじめ、やっているのに見えないサービス、というものが多くあり、もったいなく感じている。高齢者にとってコンピューターは敷居が高いのかもしれないが、郊外の高齢者が自宅で情報にアクセスすることのできるサービスに繋がれるのではと思う。毎回は無理でも、事業としてこのような「見えないサービス」を紹介できるといいのではないか。

(事務局) 実際に、そうしたサービスの利用者はまだまだ少ないと感じている。サービスの存在を知らない利用者も多いと思うが、そうした方へどのように発信していくかは大きな課題である。何か良い意見があれば伺いたい。

(北口委員) 図書館が好きな方は放っておいても来館してくれる。しかし、そうでない方は、もしかすると中には図書館が無料で利用できることも知らない方がいるかもしれない。そういった方を呼び込むには能動的に活動を行う必要がある。このような意味では、今まで来たことがない方も出産をきっかけに来館する、という点でブックスタート事業に注目している。図書館内だけではなく、身近なところでは博物館など、その他の市の機関と連携していくことが必要である。

(小嶋委員) 仕事を静かな環境で行うため図書館を利用する方から、Wi-Fiの繋がりにくい箇所があること、有線でPCを使用できる場所が限られていること、周囲が勉強などを行っているためタイプ音を出すのに気が引ける、といった意見を聞いている。そうした方が仕事をしやすい環境づくりなどがあるとありがたい。

(事務局) 図書館で本を読む方、学習室を利用する方からもPCの使用音が気になる、という意見を受けており、双方からの意見を頂戴しているといえる。より多くのPC利用者専用スペースを作るのは現状では難しい。

Wi-Fiについて、1階、2階とも利用できるようにはなっているが、ルーターから離れると利用が困難であるため、LANケーブルの貸し出しなどにより対応をしている状況である。

6. 閉会(事務局)